

CASA新聞

発行 株式会社カーザミカワ

岡崎本社

☎0564-24-2511

岡崎市吹矢町88番地

豊田営業所

☎0565-28-3891

豊田市豊栄町6丁目1番地

国産合板商況 荷動き鈍く弱基調

国産針葉樹合板は年明け後、プレカット工場向けを中心に価格が軟化している。特に全層杉合板が弱い。

3月期決算を前に在庫を抑制する動きが広がっており、国産材製材、集材材価格の下落で住宅会社やプレカット工場からの値下げ要求が強まっていることが背景にある。メーカーは「3月一段と引き合いが鈍化する」と見ているが、需要家の仕入れ抑制は9月以降、半年に及んでおり、パルテイクルボードや石膏ボードなど競合品が増えた壁用の長尺合板は別にして、12ミ、24ミ、3×6判は競合が少なく、4月以降は徐々に引き

合いが上向くと見ている。住宅需要も縮小しているとはいえず、合板出荷の減少はそれ以上に大きく、流通在庫は加速度的に減っている。発注は少ないが即納依頼が増え、在庫が切れるぎりぎりまで待つて発注している」とメーカーは指摘する。

現状はメーカー在庫が十分にあり、配車も支障がないため、顧客の要望通りに届けられていく。だが、4月以降、引き合いが集中すれば納期が延び、雰囲気は変わってくる」と予想される。

名古屋

針葉樹合板の荷動きは依然活気がない。物価上昇などを背景に、注文住宅の建築数減少が住宅資材の荷動きに影響している。合板の大口需要者のプレカット工場では新規の仕事量が増えないため受注残が減少しており、加工賃を値下げて仕事を確保しようとする工場が増えているという。仕入れ拡大に期待できない情勢だ。

価格は今月も全般に保合で推移しているが、決算期を控えて処分値の話も出ており、地域で値差が生じている。構造用12ミ、厚3×6判は今月も横ばい。流通在庫の調整が遅れており、商いで売買双方が折り返う価格自体が見えにくくなっている。

製品は全般で荷動き停滞 中部地区

中部地区では、伐り旬の終盤で流通量が少ない大径良材に高値が付いている。製品は国産材、外材ともに荷動きが停滞。特に外材製品は在庫調整が遅れており、国産針葉樹合板も住宅需要減少で荷動きに活気がない。

国産材素材は、伐り旬終盤の2月に各素材市場に松や杉ほかの良材が出品された。しかし、例年より量は少なく、大径良材には広葉樹も含め高値が付いている。並材価格に大きな変

化はないが、輸出を手掛ける企業では中国向けの需要が回復基調にあるという。

国産材製品は、松杉ともに電力料金をはじめとする製材コストが急激に上昇するなかで値下がり傾向を示しているだけに、更なる値下がり

を危惧する声もある。欧州材製品も、年明け以降流通関係者の予想を超える荷動きの停滞が続いている。在庫量の適正化について、商社は「梅雨明けまでかかる」と予想。別の商

社は、過剰な安売りが仕入れルートの減少につながることを懸念している。

米材輸入製品は産地価格の下落を受けて弱含みだが、Wウッド製品などに比べると在庫圧迫は少なく、大きな値崩れはなさそうだ。

国産針葉樹構造用合板は、大口顧客であるプレカット工場の仕事量が増えていることなどから荷動きに勢いが強い。また、流通在庫の調整遅れも指摘されて

2022年住宅リフォーム市場7.3兆円、前年比5.7%増

矢野経済研究所は3月7日、住宅リフォーム市場の短期的な市場トレンド調査の推計結果を発表した。2022年の市場規模は、前年比5.7%増の7兆2982億円（速報値）と推計。居住空間での充実した時間へのニーズの高まりから、住宅・住環境関連へのリフォーム投資や関連消費が活発化したことで、市場全体が拡大したとみられる。

分野別にみると「設備修繕・維持関連」分野が前年比6.6%増と大きく伸長。「家具・インテリア等」分野も同6.4%増と回復した。「増改築工事（10平方メートル超）」分野は2022年第4四半期（10〜12月）の市場規模は、前年同期比8.2%増の2兆579億円（速報値）と

推計した。高水準になった一因として、国土交通省のこともみらい住宅支援事業（令和3年度補正予算、令和4年度予備費等）の補助金申請額が秋口に上限に達するとの見通しにより、駆け込み需要が発生したことがあげられる。

2023年の市場規模は、6.8〜7.5兆円で推移するものと予測。新型コロナウイルスが感染症法上の「5類」に移行され、行動制限がなくなった場合、人々の行動が活発化しレジャー・旅行等の支出が本格化すると思定されている。これによりリフォームへの消費支出が減少するとみられるが、引き続き住宅・住環境関連への投資やリフォーム関連消費がある程度見込める場合は、市場規模は堅調あるいは拡大するものと予測する。

持ち家が過去最低 1月の新設住宅着工

1月の新設住宅着工戸数は6万3604戸（前年同月比6.6%増）と、4カ月ぶりの増加となった。総数の増加は、新築分譲マンションの回復が主な要因だ。持ち家は1万6627戸（同8.3%減）で減少傾向が止まらない。持ち家は1965年の調査開始以来、最低となった。

住宅総着工戸数が4カ月ぶりに前年同月を上回ったため、着工床面積も507万5000平方メートル（同2.2%増）で5カ月ぶりに増加した。戸数及び床面積の増加は新築分譲マンションが1万1990戸（同69.6%増）となった影響が大きい。分譲マンションの月間1万戸超は22年8月の1万727戸以来5

カ月ぶり。また、分譲住宅に占めるマンション比率は52.8%となり、22年4月以来、9カ月ぶりに過半数を超えた。貸家についても、2万4041戸（同4.2%増）と堅調な増加傾向で、1月の総数増加に貢献している。貸家の前年同月超は23カ月連続だ。

対して、戸建て分譲は1万576戸（同3.9%減）で、3カ月連続の前年同月割れ。戸建て分譲の単月着工戸数が1万1000戸を下回ったのは、21年2月実績の1万470戸以来、23カ月ぶりとなった。

持ち家は1万6627戸（同8.3%減）で14カ月連続の減少となったうえ、単月での着工数2万戸割れは2カ月連続だ。

比較対象となる22年1月が1万8130戸と過去最低水準だったため、減少幅は1桁台にとどまった。

また23年1月の戸数は、1965年同月の1万7614戸を約1000戸も下回る過去最低の実績だ。秋以降、住宅会社各社の受注低調が、着工戸数の実績に表れている。

地域別では首都圏、中部圏、近畿圏の3大都市圏いずれも総戸数は増加した。しかし分譲マンションが大幅に増加し、持ち家と戸建て分譲が減少する構図は全国の傾向と共通している。特に首都圏は3658戸（同17.1%減）。22年10月以来、減少幅が拡大している。

表示説明	値下げ 	横ばい 	値上げ 
市況状況	ラワン薄ベニヤ	ラワン構造用12mm	針葉樹12mm 3×6

東日本の針葉樹合板メーカーは3月も減産を継続する。針葉樹合板は年明けも荷動きが回復せず、価格が軟化している。だが、メーカーには今値下げしても引き合いが増え、逆に仕入れが必要になった段階で引き合いが集中し、また価格が急騰する恐れがあるとの懸念がある。市中在庫は多くなく、3月の決算期が過ぎれば在庫を積み増す動きが徐々に広がると判断。メーカー在庫を抑制することで先安観を払しょくし、需給バランスと価格の安定化を図る考えだ。

国産針葉樹合板は年明け後、プレカット工場向けを中心に価格が軟化している。3月期決算を前に在庫を抑制する動きが広がっているほか、国産材製材集材材価格の下落を受けて、住宅会社やプレカット工場からの値下げ要求が強まっていることが背景にある。

メーカーは「3月は一段と引き合いが鈍化する」と見ているが、パーティクルボードや石膏ボードなど競合品が増えた壁用の長尺合板は別にして、24³、24³、3×6判は競合が少なく、4月以降は徐々に引き合いが上向くと見ている。

国産針葉樹合板の昨年12月の生産量は、前年同月比20・7%減、出荷も同20・7%減といずれもコロナ禍以降で最低の水

民間の木造・木質化へ2.3億円計上

愛知県23年度予算案

愛知県はこのほど、2023年度当初予算案を発表した。一般会計は総額2兆9657億円、前年度当初予算比4・9%増となった。主軸13施策の一つ「農林水産業の振興」には602億円が充てられ、このうち「林業の振興」には23億7917万円（前年度比12・4%増）を計上し、「森林の適切な維持・管理」には森林環境譲与税などを財源にした27億6223万円（同6・8%減）を計上した。

木材関係では、カーボンニュートラル（CN）の実現やSDGsの達成に向け、民間建築物の木造・木質化に取り組むための予算2億3303万円を計上。このうち県産材の新規用途拡大（5962万円）では、新規事業として「大径材の利用促進」が盛り込まれ、径30センチ以上の材の有効利用を図るため建築部材の県産材への転換に向けた取り組みを実施する。また、県産材利用の普及啓発及び木造・木質化に向けた相談窓口の設置（3330万円）では、新たに「あいち木造・木質化サポーターセンター」を設置して民間建築物の木造・木質化を支援する。このほか、民間施設などでの木材利用の促進（1億円）では、県産材を利用したPR効果の高い民間施設などへの支援を実施する。また全体の木造・木質化

の促進（4010万円）では、CNの先導的な取り組みとして名古屋競馬場跡地の木造・木質化を支援していく。「あいちのスマート林業」の推進については3970万円を計上。森林情報整備事業では一元管理したデータをもとに、市町村などと共有する森林クラウドシステムの試行運用を行い、航空計測で取得した詳細な森林資源や地形情報を活用して森林境界の明確化に取り組み。スマート林業推進事業では木材需給情報システムの導入、スマート林業推進プランの作成に取り組み。

欧州Wウッドは今月も下落

米材協議会名古屋支部は21日に例会を開き、需給や市況の動向などを協議した。建築実需の低迷と流通在庫の滞留が続き、米材輸入製品の引き合いは弱く、今月も並材は弱含みだ。Wウッド関係は荷もたれにより値下げ傾向が止まらず、価格評定は集成管柱が1本代金2000〜3000円安（前月比）、同通し柱が同400円安の続落に。ソリッド及び集成間柱も立方3000円安、Rウッド集成平角は同5000円安。米松製品も弱含みで、先行きは国内挽き大手の値下げの影響が出る模様。米松

ではKD根太が同2000円安。SPF2×4材も現地の値下がりを受けて同2000円安となった。このほかニュージラード松やチリ薄板も一段安とされた。市況に関しては、「加工賃より仕事確保を優先するプレカット工場が大半になってきた」（問屋）との話が聞かれ、この影響で資材仕入れの予算は抑制されて供給側は厳しい立場に。売買取りが折れ、価格自体が見えにくくなる一方で、流通在庫の調整が進まない状況になっている。

今後の稼働「大きく低下」は1割未満

プレカット工場アンケート調査

ネットイーグルが全国のプレカット工場を対象に2月10日まで実施したアンケート調査によると、工場の今後の稼働状況について「少し低下する」が46・8%（前年比26・2%）、「増加した」が25・0%（同20・0%）と増え、二極化の傾向が見られた。ただ「大きく低下した」は7%に留まり、概ね堅調に推移した。ウッドショックの業績への影響については「大きくプラス」が26・9%（同17・3%）、「ややプラス」が35・6%（同37・8%）で、プラスの評価は62・5%（同55・1%）と前年に比べて増えた。「木材価格の高騰がいつ

「木材価格の高騰がいつ

「木材価格の高騰がいつ

「木材価格の高騰がいつ

「木材価格の高騰がいつ